

群馬・太田に試作工場

古川製作所、スペース2倍

生産ライン実証

古川製作所（群馬県太田市、古川大嗣社長）は、実際のラインと同じレイアウトで生産を実証できるトライアル（試作）工場を太田市内に新設する。10月末に竣工し、11月を

めどに稼働する。同社は産業用ロボットを用いた自動車部品生産システムの設計、製作を手がける。電気自動車（EV）市場への新規参入が相次ぐ中、トライアルスペースを現状

比2倍超に広げ、需要を取り込む。太田市内の現本社の近接地に土地を取得し、工場の延べ床面積は4556平方メートル。投資額は非公表。既存4

のトライアルスペースを確保する。5階建ての新本社も同敷地内に建設しており、2023年内をめどに移転する。技術部門を新社屋に移し「現場とのコミュニケーションシ



場とのコミュニケーションシ

問題を田滑にし、問題を解決をスムーズにする（古川社長 構え。トライアルスペース

縮める。多くのスペースを必要とする半自動化や自動化、無人化

は自社工場のトライアル期間を大幅に短縮できる。多くのスペースを必要とする半自動化や自動化、無人化

も含め幅広く顧客を開拓しており、今後同敷地内にトライアル工場の増設を検討する。

古川製作所として最大のトライアルスペースを確保する（新工場の完成予想図）

などのシステムの設置に最適な環境も用意できる。

工場の屋上には太陽光発電パネルを設置。蓄電池も導入し、カーボニユートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）を達成する。EV

では顧客が描く工場の量産状態と同様のレイアウトを再現。実際に製作し、事前に問題点を抽出する。顧客は自社工場のトライアル期間を大幅に短縮できる。多くのスペースを必要とする半自動化や自動化、無人化